高梁川流域キッズ

高梁川流域ゆかりの
偉人・賢人特集

本田　實（ほんだ　みのる）

新見市 高梁市 総社市 早島町 **倉敷市** 矢掛町 井原市 浅口市 里庄町 笠岡市

- 活躍した年：
  1913～1990年
- 活躍した分野：
  天文家
- ゆかりのある場所：
  ・原澄治・本田實記念館
  ・旧倉敷天文台
  スライディングルーフ観測室

本田實は、大正２（１９１３）年、今の鳥取県八頭郡八頭町に生まれました。

子どもの頃から星に興味を持っており、昭和２（１９２７）年頃、２８ミリシングルレンズを購入して望遠鏡を自分で作り、土星の環や木星の衛星を観察しました。もともと彗星に強い関心があり、天文学者である山本一清との出会いもあり、昭和１２（１９３７）年に山本一清がつくった黄道光観測所（広島県福山市）の観測員になりました。

昭和１５（１９４０）年に初めて新彗星「岡林・本田彗星」を発見すると、翌年には元倉敷町長である原澄治が広く一般に天文知識を普及するために作った倉敷天文台に着任しました。

その後、軍隊に入り、戦地についた昭和１７（１９４２）年に、シンガポールでイギリス軍が残したレンズで望遠鏡を作って、彗星を発見（ただし、グリグ・シュプル彗星だったため非公認）しました。

復員後は、再び倉敷天文台で観測を再開し、昭和２２（１９４７）年に戦後初の新彗星「本田彗星」を発見しました。昭和２３（１９４８）年から倉敷天文同好会を運営し、昭和２７（１９５２）年に倉敷天文台の主事になりました。

倉敷の街が明かるくなり、新天体発見が困難になったため、暗い空を求めて移動観測していたとき、今の吉備中央町の地域の人のはからいで、私費で観測所「星尋山荘」をつくり観測を続けました。

平成２（１９９０）年に亡くなるまでの一生涯に、彗星１２個・新星１１個を発見し、天文学の発展と普及に大いに貢献し、その年に倉敷市名誉市民になりました。